

西南学院大学 図書館報

No. 100

1984 (昭和59) 年 7 月 6 日発行

〒 814

福岡市早良区西新 6 丁目 2 番 92 号

西南学院大学図書館

図書館報100号を祝う

学 長 村 上 寅 次

年4回発行の本学の「図書館報」が今回100号を迎えるという。その創刊の時(1955年5月)以来、この小さな冊子の経てきた年月の長さに先ずおどろくとともに、この29年間、私どもの大学生活のなかで担ってきたその役割に、改めて目を開かれる思いである。これまでも館報が発行される度に、先生方の随想や学生たちへの読書のすすめや図書館案内など、すっきりとしていてしかも行き届いた編集ぶりに、私自身この小冊子の伝統を感じさせられていたのであるが、いま100号と聞き、これまで受け継いできた関係者の方々の苦心を思い、心から感謝するとともに喜びにたえない。

最近、機会を得てアメリカのいくつかの大学を訪れ、改めて感じたことは、当然のことながら、キャンパスの生活が図書館を中心としながら活発

に展開しているということであった。ただ、図書館の機能は情報機器や視聴覚器材の進歩とともに多様に変化し、拡張しているようにも見受けられた。わが西南も大学開設以来、これらの大学と同様に図書館が大学全体のなかで中心的な存在として重視され、発展してきた。このことについては創刊号からこの100号までの「図書館報」がその内容そのものをもって客観的に証言してくれると思う。しかし、私どもはここにとどまることはできない。わが大学の図書館も、ますます国際化する学術研究の流れのなかで、大学の使命を担ってさらに前進しなければならない時であると思う。

「図書館報」も、その発展の証人となるために、新しいスタートに立って、その第101号に向けて踏み出してもらいたいと願うものである。

100号、おめでとう!

目

図書館報100号を祝う	学 長 村上寅次……1
図書館の思い出	坂本重武……2
夜間開館—1977年夏の夢	八木 幹……3
館報100号に寄せて	館 長 後藤泰二……4
情報化社会における大学図書館	刀根 淳……5
図書館を顧みて	杉本善夫……6
図書館報を思う	—四つの創刊号— 品川寿子……6
	—館報の歴史— 川上由美子……7
図書館報に望む	—利用者の声— 太田和男……8
	西尾里実……8
西南学院大学図書館略年表	……9

次

100号記念特集号

統計でみる図書館の歴史	……12
卒業論文と図書館	
卒業論文の作成にあたって	田中謙一郎……14
図書館に棲んでいた頃	
—論文執筆の思い出—	岩尾龍太郎……15
昭和58年度図書館各種統計	……16
ニュース・告知板	……18
付 録	
I. 西南学院大学図書館報総索引 (No.1~100)	
II. 昭和59年度指定図書目録	

図書館の思い出

理事長 坂本重武

私が西南学院に來任したのは1928年であった。当時の図書館は旧制高等学部校舎の東端にあった、名前は図書館であっても実質は図書室であった。やがて、学生数増加のため、この図書室を教室に使うことになり、図書室は旧制中学部西校舎の西端に仮住いをするようになった。私が図書館長になったのは1939年でこの図書室時代であった。図書館は実質的には高等学部で使用していたが、学院全体のものということで、私は西南学院図書館長ということであった。私が最初にぶつかった事件は、当時左翼思想の弾圧が次第に厳しくなってきたことが、当局の手は西南の図書館にも及んで、多数の左翼図書が押収されたことであった。当時20周年記念事業の一環として、図書館を建築することになった。それはかなり遅れたが1940年に完成した。場所は現在の高・中グラウンドの西南隅、構内道路をはさんで北に赤煉瓦の書庫、南に閲覧室、両者をつなぐ事務室は道路の上にあるという図書館であった。有力者の寄附によって、国体研修文庫が設立されたのもご時勢であった。しかし、戦況は日々不利となり、図書館は開店休業の状況が続いた。しかし、終戦になると、紙も印刷施設も不足し、図書の価格は暴騰した。その中で西南は大学を設置することになり、図書館の充実は絶対不可欠のこととなった。そのさなか、1948年8月私は図書館長を辞任した。在任9年4ヶ月であった。

その翌年、西南学院大学は目出度く開設された。

私は1951年から1年間、ペイラー大学で勉

強した。その図書館は私にとっては学問研究の場であるとともに、清興慰樂の所でもあった。また、いろいろの点で啓発されて、後で大変役に立った。

さて、大学開校後5年目にして新しい図書館ができた。現在、大学院のある場所にできた建物である。はじめは図書の数が少なく、3階などはガラ空きで、そこでクリスマスの祝会をしたこともあったが、次第に図書の増加のピッチがあがり、10年が経過すると、そろそろ新図書館の必要が考えられ始めた。私は1964年にまた、大学図書館長に選ばれた。以前は西南学院図書館であったが、1960年から組織が変わって西南学院大学図書館となっていた。私の取り組まなければならなかった仕事は新図書館の計画であった。1967年には欧米を廻って大学図書館の視察をさせてもらった。5階建、収容図書数20万冊、座席450の現図書館が完成したのは、1968年であった。それは16年前のことである。したがって、そろそろ拡張が考えられつつある。私は1969年7月図書館長を退任した。在任5年7ヶ月であった。これを前回の分と合わせると、丁度15年になる。私は西南に勤続45年であるから、その半分の期間は図書館勤めであったことになる。

顧みると、現在の図書館の建物は図書室時代から数えると5つ目に当る。そして、前の4者の建物はすべて取りこわされてしまって、今は跡形もない。滄桑の変とはこういうものをいうのであろうか。

(元図書館長)

夜間開館 — 1977年夏の夢 —

文学部教授 八 木 幹

時々の個人的な必要に応じて図書館を利用していたものが、突然運営面で公的な責任を負うことになった。1977年の夏である。多くの先輩が情熱を燃やし、自信と抱負をもって取り組んできた大学図書館の兼担業務を想うと気が重く、その年の夏は何時になく、長くて暑くなりそうな予感がした。同時に、生半可な知識と未熟な気負いが、図書館本来の機能と正常な歩みに、むしろ有害でこそあれ、決して望ましい結果は生じない事を自覚した。

夏季休暇の日々、図書館の執務室と自分の研究室の間を往復すると、夏の日も終りに近づき、相変らずの要領の悪さだけがくりかえされた。

福岡の夏の日ざしは強く、殊に午後からの太陽は、南国生まれの私にも相当なものである。しかし夏季休暇中の図書館は、土曜日の午後は閉館され、せっかく午前中熱心に閲覧室で書物を開いていた学生は、午後からは、戸外の直射日光をあびて、途方にくれ、生彩を失なう。体育館でプールが賑い、隣の西南会館で音の饗宴があたりにこだまし、若者がひたすら課外活動の熱気で暑気をはねとばす時、大学図書館は息をひそめ、はやばやと閲覧を拒んで、今や巨大な書庫と化してしまう。確かに図書館業務の細目に無知な一教師が、夜間開館の必要性をどれほど痛感しても、要するに門外漢の当座の思いつき、素人の一着想にすぎぬ。限られた人員で、既に精一杯の努力を盡している現実の図書館の専任職員に、これ以上いたずらに負担を強いるような事態は回避すべきであり、到底無理な相談。現実を無視した提案は当然慎むべきであろうか。

夏休みも終りに近づいた頃、例によって司書長

と日常業務の打ち合わせをすませた際に、率直に一つの提案を試みた。正直な所、恐らく現場の責任者として、この私案には消極的であろうと予想した。司書長の反応は素早く、的確に問題の方向を指摘し、提案に積極的であった。この夏初めての実に嬉しい誤算であった。残暑の候から秋にかけて、試案は急速に具体化し、浮上した。時間外勤務の方法も具体的に検討され、現実的な対応策が配慮された。学長は英断をもって提案の趣旨に耳を傾け、学院常任理事会は原案を承認した。新聞広告で人選はすすみ、多数の応募者の中から、最終的に二名の夜間開館担当者が決定した。この人選、面接には、特に課長会議の委嘱をうけて、司書長の外に文書課長が協力した。採用が決定した二人は責任感の強い、期待と信頼に答える人物であった。たまたまその一人は、現役時代に職業野球の投手として活躍した著名人で、先頃「日本経済新聞」に連載された元南海の鶴岡監督の回想文「私の履歴書」の一節で、この人物と久方ぶりに再会し、懐かしく感じた。

1977年10月17日、両氏は正式に図書館に配置され、夜間開館が発足、原則として年間を通し、土曜日の午後も、休暇中も午前9時から午後9時までの開館が実現した。夜間開館が実施されて間もなく、「大学広報」42号（11月9日）に、あたりの暗さを背景に照明にうかぶ図書館の全景が載った。「午後8時半撮影」という説明の七文字に「広報」担当者の苦心と創意が光っていた。長くて暑い夏は過ぎて、何時しか読書の秋と夜の冷気が忍びよっていた。

英文学（元図書館長）

館報100号に寄せて

図書館長 後 藤 泰 二

図書館報第1号が発行されたのは、1955年5月1日のことであった。以来あしかけ30年、今般100号を数えるにいたった。図書館員一同、心からの喜びをもって、この記念号を迎えるものである。

私はいま、この原稿を書くにあたって、99冊の館報をめくりながら、深い感銘を受けている。その一端を述べて責を果したいと思う。

創刊号はガリ版である。幸い保存がよく明瞭に読みとれる。時の館長 中村 弘 文学部教授はこれに一文を寄せられ、「真理は汝らに自由を得さすべし」と題して図書館の意義を説かれ、館報への理解と奨励を訴えられた。

2号からは活版印刷となるが、まだタテ組みである。15号まで続く。各ページの上方には欄外にTOSYOKANPŌの文字がある。戦後の一時期、多くの出版物に見られた光景である。31号からSeinan Gakuin Univ. Library Newsと改められ、77号からNewsがBulletinにかわった。

当初、館報は、随筆や読書案内、図書館の沿革や思い出などを内容とするものであった。4ページ年2回発行という限られた紙面であるが、ひたむきな努力のあとがみられる。当時としては数少ない開架式図書館が新築され、館員もみな若く意気さかんな時であったという。1966年、30号の頃から年4回の発行となり、図書館の利用状況や各種の統計、新図書館の着工や完成などのニュースが見られるようになった。50号から60号にかけては受贈図書の日録や指定図書のリストが、70号から80号にかけては文献検索やレファレンスに関する記事が掲載されるようになり、館報はBulletinにふさわしく多彩な内容をもつにいたった。

執筆者も多岐にわたっている。随筆、読書のすすめ、文献解説、卒論の書き方、海外図書館の見聞など、貴重な原稿を寄せていただいた先生方、延べ306人。統計や目録の作成、ニュースや利用法の紹介、研修やレファレンスの報告など、図書館業務の全般にわたって、毎号、綿密な資料を用意して下さった館員の皆さん、延べ230人。後輩のために、館報のために、図書館での思い出や利用者としての声を寄せて下さった卒業生・在学生の諸君、延べ65人。館報は合計、実に600人の人びとによって支えられてきたのであった。

私はいま、これらの人びとに深い感謝の意を表わしたいと思う。この人びとの協力なくしては、館報は、今日を迎えることはできなかったであろう。100号、30年、600人、ゆるがせにできない数である。

かつて古人は、創業を難しとなし、あるいは、守成を難しとなしたという。いま100号を迎えて館員一同、草創の時と人々に思いを馳せ、記してその労を謝したいと思う。館報第1号の編集発行人は、時の主任司書 山下和夫 現教務部事務次長であった。やがて編集後記は、当時の司書 伊藤治生 現就職課長に引き継がれ、かくて発行は軌道にのり、今日にいたったのである。

時うつり人かわり、幸いにして100号を閲したいま、私はこの館報が、次の100冊もまた、滞りなく発行されんことを希わずにはおれないのである。関係者一同、意を新たにして101号に踏み入りたいと思う。御協力を切にお願いする次第である。

商学部教授（企業形態論）

情報化社会における大学図書館

刀 根 淳

1. 情報化時代の大学図書館

情報化社会は、大学図書館をその好むと好まざるとにかかわらず改革へと導いている。正に図書館界は、時代の流れに抗することのできない転換の時期に立たされているといつてよい。

かつて大学図書館は、象牙の塔と呼ぶにふさわしかった。確かに大学の研究・教育の中枢部である図書館は、大学の心臓とも、象徴ともいわれてきた。このことは、いかに社会が進展しても、大学図書館の大学における位置づけは変わらないであろう。より高度な研究をおこない、より充実した教育を進めるための大学での素材を図書館に求めることは自ら明らかであるからである。

もともと大学の研究体制を、充実、整備するには、少くとも研究機能の面からみて、大学図書館は本来、ある意味で体質的に保守性を保つことが、より研究を推進する最も有効な手段である。端的にいつて、研究はこれに関する諸資料をできるだけ迅速に手もとに収集、整備し、利用する必要があるからである。

しかし、最近の研究、学習上の需要、要求は多岐にわたり、その内容、数量も極めて複雑化の傾向をたどってきた。これからの大学図書館は、全分野の膨大な研究、学習資料の質、量を受けとめるだけの能力は望み得ない。あけて大学図書館間の協力、相互利用ならびに図書館業務の機械化処理にたよらざるを得ない情勢に立たされてきた。いわば個人プレイが、団体、総合のプレイのなかにおいてこそ、はじめてその目的が達せられる図書館界の構造に変わりつつある。特に大学図書館

の変貌を要求される所以がそこにある。そしてこのことは理論の段階から現実の問題としてわたしたちを否応なく追いたてる。

そもそも大学図書館は、最も重要な機能として研究機能があり、同時に学習、保存および総合機能をもたねばならないが、これらは内部的の機能にとどまらず、外部機能すなわち対学外者のいわば公共機能をもあわせもつべきである。時代は明確に大学図書館に要求しているし、現に事態は着実に進行している。

2. 図書館業務の機械化

情報化社会での学術情報システムの在りかたに文部省は強い対策を確立した。全国大学図書館界の機械化路線による学術情報の収集と利用に強い施策を断行し、すでに国立大学では着実に実施に移行し、将来は公・私立大学をも包含した全国ネットワーク化の方針で、その指導を強化する傾向にある。これからの私大の図書館活動が機械化指向の強弱によって、その私大の優劣を問われるほどの機械化時代を迎えた。

3. 本学図書館の現状

蔵書45万冊に達した本学図書館にとって、国連、EC、OECD関係資料の収集と、年間を通じて夜9時までの夜間開館の定着が目目される。

また、昨年業務の機能分化と事務組織の充実のために2課制を採用し、業務の機械化は、学術雑誌の受入、教員貸出図書の管理、目録業務の一部計画等段階的に進めている。図書館の運営は、全学資料の一元化による集中管理方式をとり、一貫した収集、整理、利用につとめている。

(図書館事務次長)

図書館を顧みて

杉本善夫

昭和24年5月1日。私が図書館に採用された日である。当時の人事は各部署ごとに行われていたようで、筆記試験はなく、ギャロット院長の面接だけであった。館長は八田薫教授で、西南学院図書館として高等学校のキャンパスの西側にあった。当時の館員はアルバイトも含めて9名位で、なかに川田礼子氏(現在の芥川賞作家の森礼子氏)がいた。又主任司書の木村秀明氏(現八幡大教授)は高校教員の兼務として指導してくださった。分類はNDC5版と西南学院図書分類の二本立になっていて、次期主任司書坂口静一氏のころ春休み等を利用して2万冊余の図書のNDC6版への切替えを行った。当時は少人数で家族的だったせいか、大学の庶務課から1名臨時に助けていただいた。また、今のようなコピー機器はなく、洋書はタイプ、和漢書は手書きで複製していた。後日謄写版にかわってずいぶん便利になったと思った。次期館長中沢慶之助教授のころ、蔵書も増え排架場所もなくなり、新図書館の建築が望まれ

るようになったので、毎日中食後の時間に館員全員が集まって聖書を読み一日も早く立派な本建築の図書館を与えられるよう祈りの会を持ったものだった。その結果の建物は今の大学院のところにあった。(写真参照)昭和35年木村毅館長のとき学院図書館が大学図書館に改組され、だんだん日もたち、私も分類などさせていただくようになったところ受入係は兼務であった。当時予算も少なかったので選書には特に気を使い、専門書などは1冊1冊関係の先生方に見ていただいて購入していたが、その手間は大変なものだった。1冊でも重複しようものならお目玉を頂戴したものであった。現在は指定図書制度もあり複本も多いので楽になった。

(整理課・課長補佐)



— 旧図書館 —

図書館報を思う

— 四つの創刊号 —

西南学院月報(第392号)に新院長ホエー先生の「真理による自由」と題して巻頭言が掲載されていた。図書館報(第1号)には「真理は汝らに自由を得さすべし」と題して中村弘館長が発刊の辞を書いておられる。以後図書館は「真理と自由」をテーマに広く利用者に呼びかけていたことを懐かしく思いだした。その図書館報も今回で第100号、創刊号が昭和30年5月であるから、通年29年にもなる。100号をふりかえれば30年の図書館の歴史と発展を語ってくれるし、館員の努力のあとを伝える資料もかずかずである。

今回、館報を整理してみて、現在の館報の他に3つの創刊号があることを知った。

品川寿子

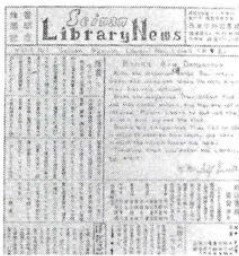
- ① 昭和24年11月「Seinan Library News」Vol.1 No.1—読書週間記念号—(この年4月に西南学院大学開校される。)
- ② 昭和27年11月「西南学院図書館報」No.1～No.3
- ③ 昭和29年2月「西南学院図書館報」No.1
(この年10月に旧図書館が完成する—現在の大学院棟の場所—)
- ④ 昭和30年5月「西南学院大学図書館報」No.1～現在に至る。(写真参照)

図書館史的にみると戦後の混乱期を過ぎ、日本社会が成長期にさしかかった頃図書館もようやく「利用者のため」という近代化の理念を確立し、

開架制度や利用者とのコミュニケーションをはかるものとして館報が目されるようになってきたのであろうが、本学においてはかなり早い時期から利用者のために館報が発行され、それによると蔵書の展示会や講演会が催され、開かれた図書館であったようである。継続的に発行されるようになったのは、やはり新図書館が独立の建物として誕生し、開架制の採用など近代図書館としての第一歩を踏み出した時である。その後学院図書館から昭和35年4月に大学図書館に改組、「図書館報、

も第16号の時に「西南学院大学図書館報」に改題され現在に至っている。図書館は今機械化による情報サービスを目指して大きく変貌しようとしている。「利用者と図書館を結ぶ活字媒体」としての図書館報は今後とも利用者に情報を提供し、利用者相互のコミュニケーションをはかるものとして、より一層の充実が望まれるであろうし、真理は汝らに自由を得させる所としての図書館の発展をも伝え続けていきたいものである。

(整理課・洋書整理係)



①



②



③



④

一 館報の歴史一

川上由美子

館報の歴史イコール西南学院大学図書館の歴史であるといえる。図書館報が誕生したのは、旧図書館（現在の大学院がある場所）が3階建ての鉄筋の建物として完成した直後で、西日本では初めての試みといわれたほど、ほとんど全面的な開架制度を採用した図書館であった時である。

図書館報は今まで何回か出し同じ回数だけ失敗して消失してしまった。という一文がある。その館報が今回100号を迎えるのであるから創刊号の編集人 山下和夫氏の努力に敬意を表したい。創刊号が発行されたのは昭和30年5月で、ガリ版刷りのわずか150部の発行であったようだ。現在は2,000部（号により多少の増減がある。）発行しているので約13倍の規模に成長したといえる。発行部数2,000部の館報は学内と他の国公立大および短大に150部程配布している。

初期の頃は不定期刊だったが、館報30号あたりから年4回発行されるようになった。また、館報の題字のデザインは発刊30号を記念して、当時四年生であった中崎正行君（美術部）の考案したものが現在も使用されている。その当時はまだ題字など白黒で、色を使用し始めたのは、館報64号からである。館報は本当に図書館の歴史であると思う。

館報2号（昭和30年12月1日発行）に図書遂に5万冊を突破などと書いてある。現在の図書館の蔵書数と比べものにならないほど少ない。また、館報14号に学院図書館がこの四月から大学図書館に改組され、これまで学院の総合図書館として高校生や中学生にも広く開放されてきたが、今後は教職員のほかは、大学の学生のみを対象とする大学図書館一本になったと記されている。また、館報40号には国連寄託図書館が認められるなど、いろいろとニュースは多い。

館報を出すごとに、特色をもたせるのは難しく、長く続ければマンネリ化におちいりやすくなる為に、それを打破する企画を考えるのに編集委員は毎回苦勞してきている。利用者の声を反映できるようにする為に、投稿募集「図書館・図書館報に望む」など色々な企画を立て、またその年毎や季毎のニュース、卒業生や新入生を対象とした企画やいろいろなレファレンスなどを毎回載せてきている。

最近ではコンピュータ化が進んできているので、その研修報告や情報化時代の西南学院大学図書館の役割、国際化されつつある図書館などいろいろなニュースをこれからも載せることであろう。

(情報サービス課・資料係)

図書館報に望む — 利用者の声 —

ベスト・ブックス・コーナーを

文学部教授 太田 和男

前号(99号)に、情報サービス課の倉光さんがベストセラーズコーナーについて書いておられる。それによると、このコーナーは、学生の活字ばなれを防ぐのに効果をあげているそうだが、私は、この記事を読んで、さらに一步を進め、「ロングセラーズコーナー」ともいうべきものを設けたらどうかと思った。

ベストセラー、必ずしも「ベストブックス」とは限らない。一時的に派手に売れるが余り長続きしないような本とは対照的に、地味だが充実した内容で長期間着実に売れていく本がある。そういう価値ある良書を特に選んで、図書館の一隅に並べてもらったらどうだろうか。ただ、本学図書館は現在40万冊の蔵書であふれ、狭くて困っているそうなので、それが無理なら、せめて館報紙上にもベストブックスコーナーを設けてほしい。

読むべき本は多いが、読むべき時間は少ない。最近私の読んだ本では、岡崎久彦氏の『隣の国で考えたこと』(注)は、読んだ時間を無駄にせぬ読みごたえある本であった。この本は、1978年の日本エッセイストクラブ賞を受賞している。各種の賞を受けた本は、ひとつの選択の基準になるだろう。毎日出版文化賞をもらったという三戸氏の『公と私』(未来社)を探したら、本学図書館にちゃんと入っていた。情報不足のため、せっかくの蔵書が眠ったままになることを恐れる。

(注) 本学図書館には「長坂寛」という著者名で日本経済新聞社版が在庫している。

(なお、今永課長より私に寄稿依頼があったのは、現図書館委員の中で、たまたま勤続年限——年齢ではなく——が一番高かったからであります。)

(フランス文学)

図書館報の活用を

文学部国際文化学科3年 西 尾 里 実

「図書館報」とは、いうまでもなく図書館案内です。この案内は学生手帳にも記載されていますが、わずか1ページしかなく、従ってその内容も限られてしまいます。例えば、閉架図書の閲覧の仕方について見てみましょう。学生手帳には、

「三階ロビーに設置してある目録で調べて係員に請求すること」とあります。確かにその通りなのですが、はたしてこれですぐ閲覧できるのでしょうか。一方、「図書館報」では、目録の調べ方はもちろん、目録そのものについて詳しく説明されていますので、大変わかりやすいのです。このように「図書館報」は図書館で閲覧する学生の身になって書かれています。

ところで、「図書館報」は図書館以外でも役に

立っています。それは、先生がたがさまざまな興味深いことを書いていらっしゃるからです。これによって先生がたの専門分野を知ることができ、時間割り作成や、国際文化学科にとって重要なコース選択などにとても参考になりました。このことから、「図書館報」は図書館の案内であるとともに、学生生活全般の案内であるともいえるでしょう。

こうした有意義な「図書館報」が今回で第百号を迎えられると聞き、大変喜ばしく思います。これからも学生の身になって考えるということを忘れないでください。そして、この第百号を踏み台にして、より高く飛躍されますように。

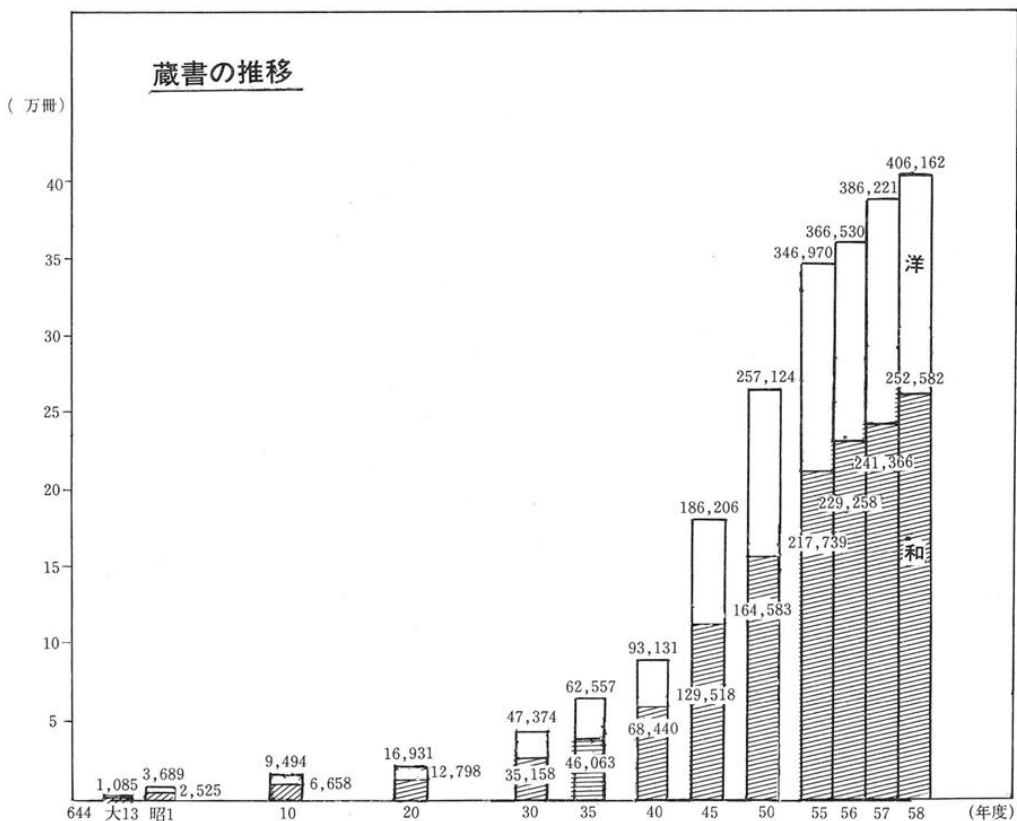
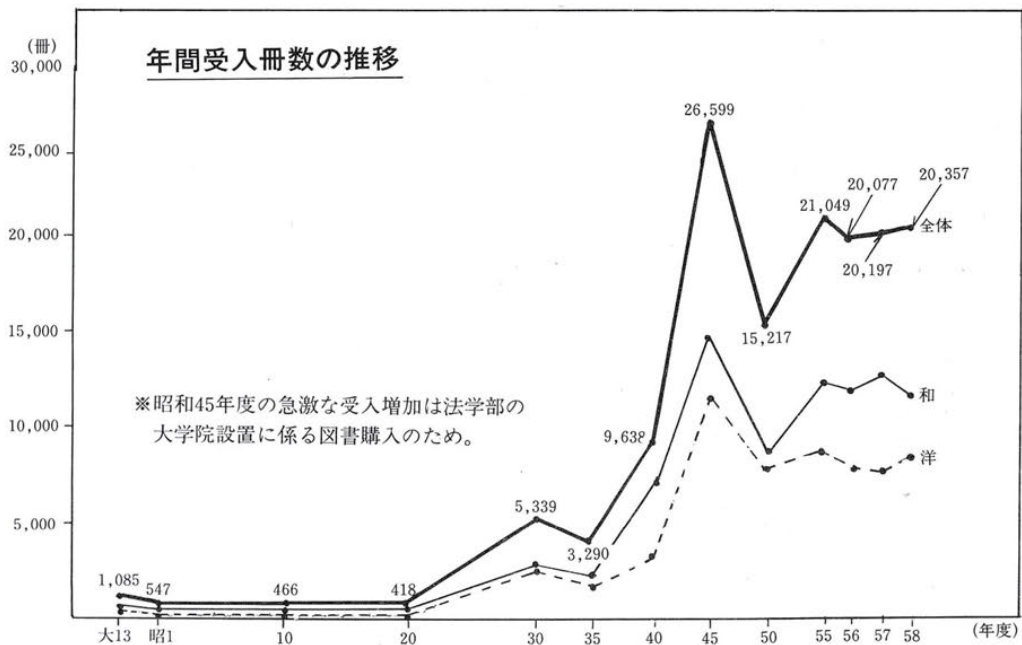
西南学院大学図書館略年表

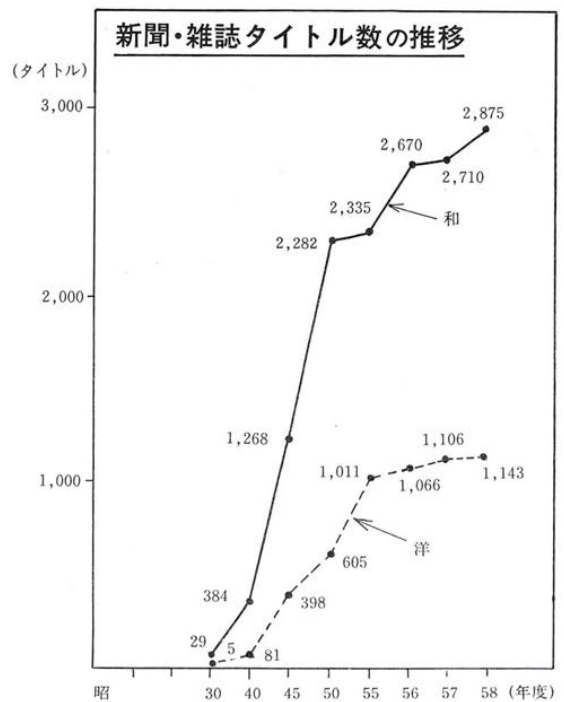
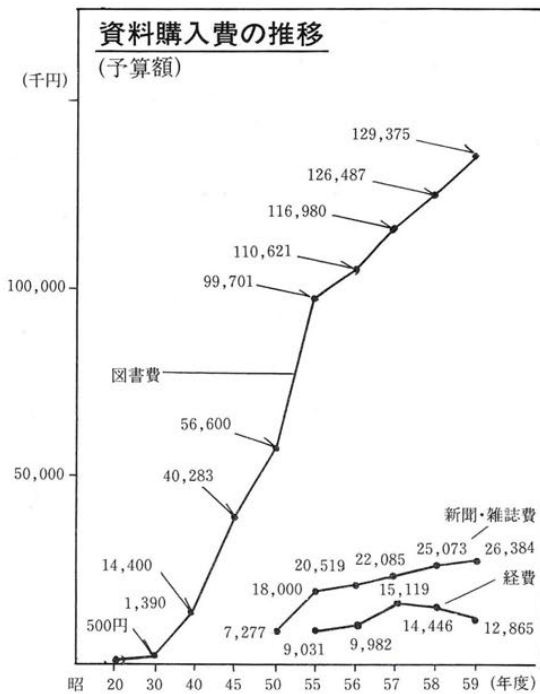
年 月	関 連 事 項	図 書 館 事 項	歴代館長
大正10年 4 月 12年 4 月 13年12月	西南学院高等学部開校	西南学院図書館創設、仮図書室設置 高等学部本館に図書館附属書庫を増築、図書原簿登録開始、西南学院図書館蔵書目録（図書分類法）による分類開始 図書室を中学部校舎に移転	
昭和 7 年 4 月 8 年 4 月		小野兵衛教授西南学院（高等学部）初代図書館長就任	小野 兵衛 （初代）
13年 4 月 14年 4 月 17年 3 月 17年10月 19年 4 月	高等学部を西南学院経済専門学校と改称	西南学院図書館規定（閲覧規則）施行 坂本重武教授図書館長就任 図書館附属書庫（赤煉瓦）竣工（20周年記念事業） 図書館閲覧室竣工（20周年事業）	坂本 重武
21年 4 月	西南学院経済専門学校を西南学院専門学校と改称		
23年 7 月 23年 9 月 24年 1 月		図書館書庫 2 階増築 八田薫教授図書館長就任 日本十進分類法第 5 版採用による分類切替開始 著者名・分類のカード目録切替開始	八田 薫
24年 4 月 24年 9 月 25年 1 月 25年 4 月	西南学院大学開校	図書館委員会発足 中沢慶之助教授図書館長就任 「増加図書目録」創刊	中沢慶之助
25年 7 月 27年 1 月 27年 3 月 29年10月	西南学院大学短期大学部発足		
30年 5 月 30年12月 31年 1 月 31年 4 月	大学新校舎竣工	九州大学第 1 回司書講習に職員参加 中村弘教授図書館長就任、神学科図書室独立 新館 2 階にリザーブド・ブックルーム設置 旧図書館竣工（3 階建、収容蔵書数10万冊、座席数210席）開架制度採用、諸手続切替 「図書館報」創刊 図書館の蔵書 5 万冊となる 里見安吉教授図書館長就任 西南学院図書館閲覧規則（開架制度による改正）施行	中村 弘
33年 1 月 33年 4 月		船越栄一教授図書館長就任	船越 栄一
34年 4 月 35年 1 月 35年 4 月	西南学院大学学術研究所発足	西南学院図書館規定（組織規定）施行 木村毅教授図書館長就任 学院図書館を大学図書館に改組、大学図書館規程・学生利用規則・教職員利用規則・特別利用者規則施行	木村 毅

年 月	関 連 事 項	図 書 館 事 項	歴代館長
昭和35年 4 月		延滞料を10円から5円に引き下げ	
35年 7 月		司書・司書補・司書教諭講習実施	
36年 4 月		図書の複写サービス実施	
38年 8 月		事務分掌規程の制定	
38年10月		視聴覚設備の設置と貸出開始	
39年 1 月		坂本重武教授図書館長就任	坂本 重武
39年 4 月	経済学部経済学科、経済学専攻科新設		
39年11月		シェイクスピア生誕400年記念展示会開催	
40年 4 月	文学部に外国語学科増設	「西南学院大学図書館利用案内」創刊	
40年 9 月		学生用ロッカーの使用開始	
40年11月		波多野記念文庫展示会開催	
41年 4 月	商学部に経営学科増設		
41年 5 月		西南学院関係史料展示会開催	
41年12月		図書館の蔵書10万冊となる	
42年 4 月	法学部法律学科新設		
43年 6 月		国連寄託図書館設置認可	
43年11月		現新図書館竣工（5階建、収容蔵書数20万冊、座席数450席）4階まで	
43年11月		短大図書館の併合	
44年 4 月	文学専攻科に英語専攻・フランス語専攻開設		
44年 8 月		清田正喜教授図書館長就任	清田 正喜
44年11月		国連ならびにOECD資料展示会開催	
45年 4 月	電子計算機センター開設、商学専攻科に経営学専攻開設	「文献情報」創刊	
45年 6 月		国連寄託図書館開館（1階・資料室）	
46年 4 月	大学院法学研究科（修士）開設		
46年 6 月	国際交流制度実施		
46年12月		福岡アメリカンセンターより図書約10,000冊寄贈受ける（以後継続して随時寄贈を受けている）	
47年 3 月		図書館の蔵書20万冊となる	
47年 4 月	大学院経営学研究科（修士）開設	書庫竣工（外装）	
47年10月		「Catalog of Books on Japan and Asia in English (to August 31, 1972)」を出版	
48年 7 月		木村毅教授図書館長就任	木村 毅
48年 8 月		5階および書庫1層の内装完成	
48年 8 月		国連寄託図書館書庫1階に移設	
48年 9 月	留学生別科授業開始		
49年 4 月	大学院法学研究科（博士）・経営学研究科（博士）開設・文学部に児童教育学科増設		

年 月	関 連 事 項	図 書 館 事 項	歴代館長
昭和50年 9 月		書庫（2層～7層）完成 留学生別科学生利用規則の制定 業務機械化開始（逐次刊行物の受入管理）	
51年 1 月			
51年 4 月	大学院文学研究科（修士）開設		
51年11月		第8回国連寄託図書館会議本学にて開催	
52年 2 月		大学院学生特別利用規則の制定	
52年 7 月		八木幹教授図書館長就任	八 木 幹
52年 7 月		2階および5階（事務室・新着雑誌室・教授閲覧室）に冷房設置	
52年 8 月		学生専用コイン式複写機設置	
52年 8 月		教員専用複写機の設置	
52年 8 月		雑誌の貸出禁止となる	
53年12月		延滞料を5円から10円に引き上げる	
54年 3 月		図書館の蔵書30万冊となる	
54年 7 月		「西南学院大学雑誌目録」1979年5月末現在出版	
54年 7 月		3階および4階に冷房設置	
54年12月		グーテンベルグ聖書館内展示	
55年 4 月	大学院文学研究科（修士）開設		
55年 8 月	文学専攻科国際文化専攻開設	「図書館業務の手引き」その(1)－参考・資料・国連－出版	
56年 4 月	大学院経済学研究科（修士）開設	ジャパン・マーク週間版テープ購入開始	
56年 5 月		第2回EDCセミナー本学にて開催	
56年 7 月		糸園辰雄教授図書館長就任	糸 園 辰 雄
56年 8 月	大学院校舎竣工 資料室開室		
56年 9 月		洋書書名目録完成	
57年 1 月		「西南学院大学国連寄託図書館利用案内」創刊	
57年 3 月		教員の貸出図書機械化管理の開始	
57年 9 月		「研究者用図書館利用案内」創刊	
57年11月		学部学生の卒業論文図書館保管の中止決定（58年3月卒業生分より）	
58年 4 月		目録カード作成の一部外注開始	
58年 4 月		ベストセラーズコーナーの設置	
58年 6 月		「西南学院大学雑誌目録」1983年5月末現在出版	
58年 7 月		後藤泰二教授図書館長就任	後 藤 泰 二
58年 7 月		図書館二課制の採用（整理課・情報サービス課の二課となる）	
59年 2 月		端末機導入（オンライン情報検索サービス用）	
59年 3 月		ジャパン・マークより和図書目録カード出力開始	
59年 3 月		図書館の蔵書40万冊となる	
59年 4 月		オンライン文献情報検索サービス利用規則の制定	
59年 4 月		DIALOGオンライン文献情報検索サービス開始	
59年 7 月		「図書館報」100号記念特集号の刊行	

統計でみる図書館の歴史

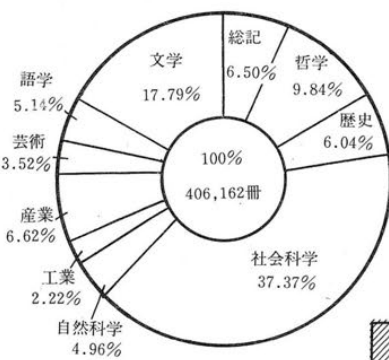




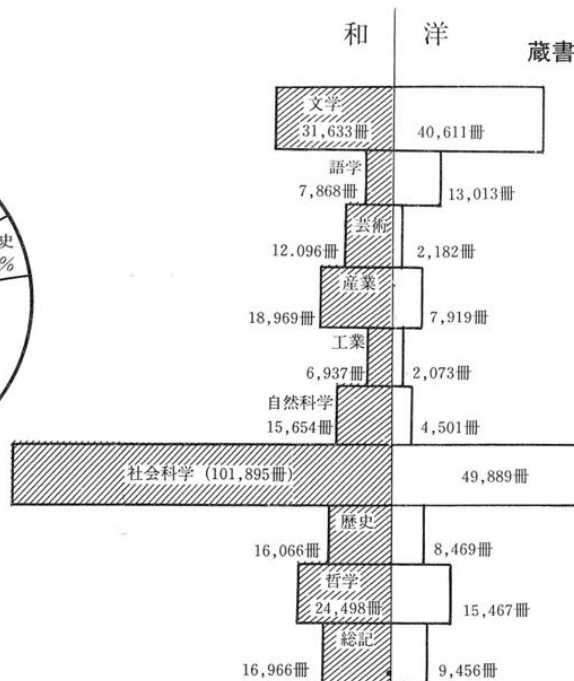
主題別蔵書

(昭和59年3月31日現在)

蔵書の割合 (和・洋合計)



蔵書冊数 (和・洋別)



(万冊) 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4 5 6 7 (万冊)

卒業論文と図書館

卒業論文の作成にあたって

商学部助教授 田 中 謙一郎

卒論を書く場合に、まず諸君が頭を悩ますのはテーマの選択と参考文献の選別であると思う。前者の作業はともかくとして、後者については、洋書を参考文献に選ぶことをお勧めする。二度手間ではないかと思うかもしれないが、「急がば回れ」である。専門にもよるが、日本語の文献よりも、洋書の方が解説が丁寧で、初心者にもわかりやすく書いてあることの方が多い。

同様にまた、最初から難解でぶ厚い本に挑戦する人がいるが、これもいただけない。確かに一生のうち、まとまった勉強をする最後の機会かもしれないが、まずは「易より難へ」である。始めのうち、その世界へ入っていくのが困難であるのなら、日経文庫や講談社ブルーバックス又は中公新書や岩波新書を読んでみるのも一計である。その際、自分が選んだテーマに直接関係がなく、すぐには役に立ちそうにない本も、自分で興味があれば、読んでおくと、そのうち自分のテーマと繋がってくるものである。結びつかなかったからといって、損をしたというものでもなからう。それこそ一生のうち知的財産を貯える最後の機会になるかもしれないのだから。

また、最近の傾向としてコンピュータを利用した論文が目につくが、これも注意を要する。マイコンや端末機のキーボードを叩いて、エラーのないアウトプットを出すのはなかなか時間のかかる厄介な作業であるが、あくまでもそれは読む人に自分の考えをよりよく伝えるための手段であって、それが目的ではないのである。Huckers というコンピュータ中毒症の人々を指す俗語ができるくらい、それは人を夢中にさせる魔力もっているので、この作業に精力を注ぎすぎて論文を書く余裕がなくなったというような事がないようにくれぐ

れも注意しておく。

同様な傾向として、ワープロでレポートを清書してくる人にも警告しておきたい。現在では記憶装置のついていない清書用の簡易ワープロは9万円程度で入手することができ、既に個人用として活用している学生もいるようであるが、誤字や自分が一人よがりを使っていた言いまわしを減らすという点では大変結構であるけれども、あまり書き始めの段階から使うのはどうかと思う。こちらとしては醜い文字をみなくてすむのだから結構な話であるが、あくまでも本質は書く内容にあるのだから、精力はそちらに注いで、最後中身が煮詰まった段階で清書しても遅くはなからうと思う。そうでないと、実際以上に勉強した気になるものである。

色々言ってきたが、何より自分の専門の勉強ができていくかどうか、すなわち「書く内容もっているか」どうかが一番肝心なことである。ある期間に集中的に勉強するのもよいが、一日のうちこの時間だけは勉強するという時間帯を確保して、一旦学習の習慣を身につけてしまえば、それほど苦心しなくても自然と文章がまとまってくるものではなからうか。最後の懸念は、前書きと後書きである。これに関して、米国では博士論文の審査に素人を入れて素朴な質問をさせると聞いたことを思い出す。一度原稿がまとまった後は一週間ほどその作業から離れて、しばらく後に見直してみると、案外新鮮な前書きや後書きが書けることがある。

最後に、この小文を、酒を飲む程勤勉には原稿のマス目を埋めない自分への自戒の意味をこめて書いたことを告白しておく。

(経営工学)

卒業論文と図書館

図書館に棲んでいた頃

— 論文執筆の思い出 —

文学部講師 岩 尾 龍太郎

私が書いたのはゼミ論だったから大したものではない。しかも4年の12月まで自治会の常任委員をやっていて、1月3日から書き始めて1月10日に疲れ果てて提出した代物だったから、全く大したことはない。むしろ政治にリアリティがあった時期だった。思い出すのもデモに出掛けたことばかり。堅気の学生諸氏の参考になるようなことは思い当たらない。

まともに書いたのは修士論文だけだ。といっても大学院へ進んだのも全く好い加減な理由からだった。教師になろうと思っていたのだが、4年生の5月、下町の中学校での教育実習でひどいめにあった。背広もなければネクタイの締め方も分らなかった頃で、エイ、面倒くさいとセーター姿で出掛けたところが、ワーワー騒いでいたガキどもは、教室に現われた私を小使いさんとしか思わず、全然着席しない。担当の教師は、私が実習に来たのをコレ幸いと休暇をとっていた。一生懸命準備した内容を大声で喋ったが、消しゴムが飛び交い、紙飛行機が教室内を舞い、てんで授業にならなかった、アア何と私は貫禄が無いのであろう！というわけで、貫禄をつけるために大学院へ進んだのであった。

修士論文の対象に選んだのはカント『純粋理性批判』だった。その頃、遅ればせながら恋だの愛だのひとしきり狂って元のもくあみになった後、アルバイトの合間をみつけては分ろうが分るまいがその翻訳本を3回読んだ。その本には醤油がしみ込んでいるから、食堂へ議論しに行くときも持ち歩いていたのだろう。どこに何が書いてある

かをほぼ完全に覚え込んでから、ゴソゴソ断片を書き始めた。修士2年の秋だった。

その頃私は図書館に棲んでいるようなものだった。下宿は寒いので、朝起きると大学へ行ってメシを食う。書籍部でブラブラして友人に会々と、学生ホールへ議論と卓球をしに行った。それから図書館で、関係ありそうな本、関係ない本とりまぜて読み取りながら、断片を書く。夕方は生協食堂へ行くと、また友人どもと会う。彼らと随分ヘンな議論をした。その当時見に行ったポール・デルボーとフェルメールの絵の静けさはどこが違うか、日本の詩人で五人選ぶとすれば誰々か……。私は宮沢賢治、伊東静雄、石原吉郎の順を譲らなかった。その後、“ちょっと”のつもりで長い間卓球をやった。そして夜9時半の閉館まで図書館で暮した。

断片がたまるにつれて筋が見えてきた。不勉強の私は解釈書はハイデガーのカント論しか読まず、カントの中に理理解体モチーフを読み込んでゆくその解釈には鮮烈な印象を受けていたのだが、或るときから猛然と反発が噴き出してきた。これが引き金となって骨子ができた。ハイデガーが＜人間の有限性＞を発掘するのであれば、私はカントの表現＜有限であるが理性的存在者＞に依拠してカントの全頁を解釈してみせる。私の論文はただこのことだけを言いたいためのものとなっていた。その後、私はアレもコレもと論点を広げて書き散らすようになったが、この論文だけは不思議な透明感がある。

(倫理学)

昭和58年度 図書館各種統計

● どんな内容のものがどれだけ増加したか。

○ 図 書

(単位：冊数)

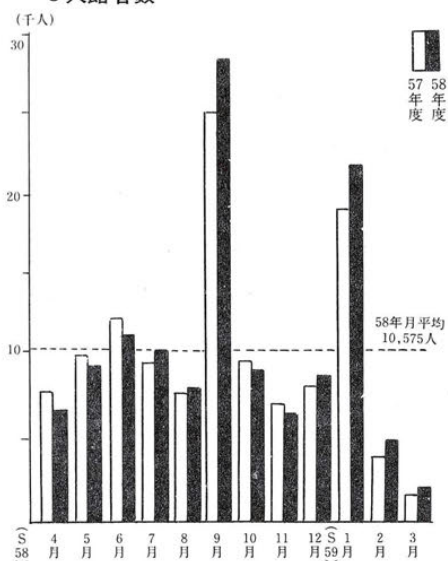
分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
区分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学	
和 書	672	999	669	5,294	547	331	970	627	318	1,192	11,619
洋 書	290	717	518	3,426	222	87	454	251	870	1,903	8,738
計	962	1,716	1,187	8,720	769	418	1,424	878	1,188	3,095	20,357
57年度 和洋合計	1,048	1,812	1,292	8,513	1,130	436	1,143	519	1,183	3,121	20,197

○ 視聴覚資料

レコード	テ ー プ	マイクロ フィルム	マイク ロ フィッシュ	フィルム	スライド	絵 話	フロッピー ディスク	計
17枚	47リール	637 リール	7 点	9 本	5 本	12点	3 枚	737 件

● この2年間にどれだけ利用されたか。

○ 入館者数

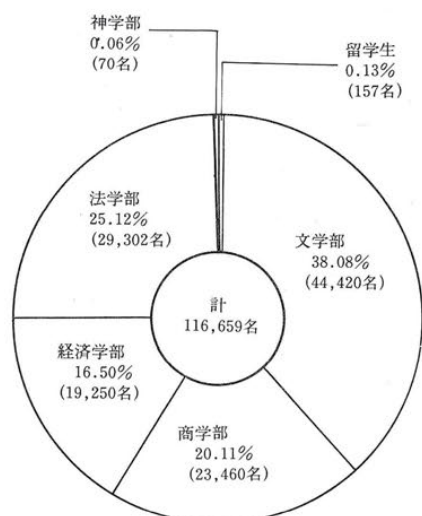


〔月 別〕

年度	合 計	1 日 平 均
57	120,748人	437人
58	126,897	460

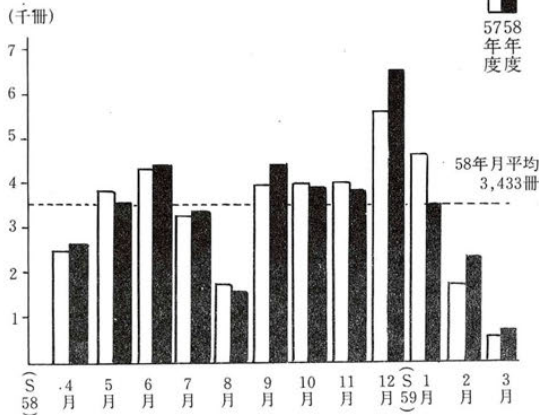
○ 学部別入館者数 (割合)

(教員・大学院生・学外者を除く)



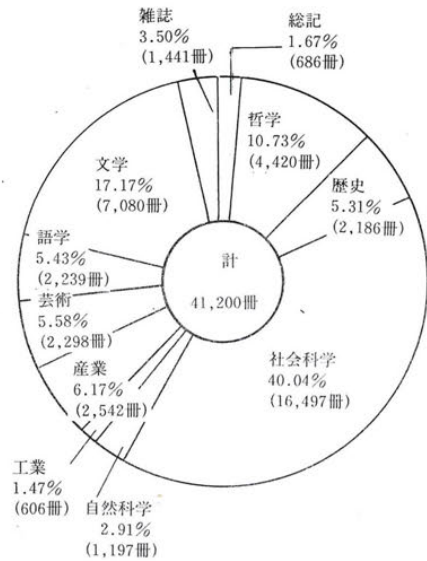
(57年度 開館日数 276日)
(58年度 開館日数 276日)

○館外貸出冊数



年度	合計	1日平均
57	40,792冊	148冊
58	41,200	149

○主題別貸出冊数 (割合)

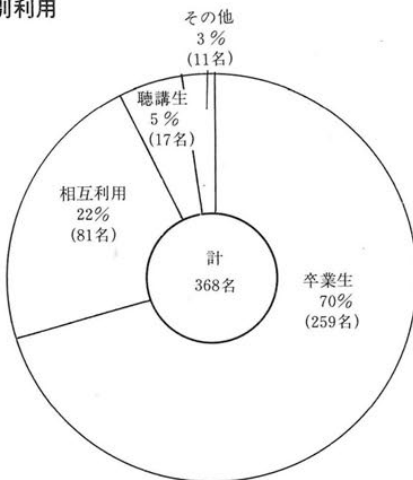


● その他の利用統計

○文献複写 ※ () 内は57年度

利用者区分		電子複写		マイクロフィルムからの引伸	
種別		件	枚	件	枚
学内	教員	1,068 (965)	31,935 (31,333)	81 (4)	1,512 (210)
	学生	4,560 (4,593)	51,485 (59,646)	0 (0)	0 (2)
学外		465 (403)	8,177 (8,942)	0 (2)	0 (392)
合計		6,093 (5,961)	91,597 (99,921)	81 (6)	1,512 (602)

○特別利用



(特別利用者368名の内訳)

- 他大学図書館へ本学学生の相互利用希望 45件(61)
- 視聴覚機器貸出 5件(9)
- 学生の図書購入希望 97件(88)
- 投書 11件(3)
- 紛失弁償図書冊数 12冊(19)
- 閉架図書閲覧者 4,243名(3,405)
- その内訳
 - 卒業論文 510名(471)
 - 図書 1,446名(1,143)
 - レコード 27名(77)
 - その他(新聞・雑誌) 2,260名(1,714)

※ () 内は57年度

☆ ニュース・お知らせ ☆

<図書館委員会>

- 59.4.20 ①昭和58年度図書館決算について
 ②昭和59年度図書館予算の追加申請について
 ③New York Times (1963-1982) の処理について
 ④昭和59年度共通研究図書費、一般図書費、新聞雑誌費の配分について
 59.5.25 ①昭和59年度私大助成の申請について

<研修・出張>

- ・昭和59年度第1回私立大学図書館協会
 西地区部会 九州地区協議会
 59.4.24 於：長崎市（出島会館）
 後藤館長、刀根次長、今永課長出席
- ・昭和59年度九州地区大学図書館協議会総会
 59.4.25 於：長崎市（長崎新聞文化ホール）
 後藤館長、刀根次長、今永課長出席
- ・昭和59年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会
 59.5.22 於：九州産業大学
 刀根次長、今永課長、荒川係長出席
- ・第5回EDCセミナー
 59.5.24、25 於：早稲田大学
 小嶋司書出席
- ・私立大学図書館協会昭和59年度春季西地区部会
 59.6.1 於：大阪産業大学
 後藤館長、刀根次長、今永課長出席

<人 事> 任用

司書 立石 肇(整理課・洋書整理係) 59.4.1 付

告 知 板

○夏休み長期貸出

7月2日(月)より。

貸出対象は学部学生、専攻科生、大学院生で、冊数は5冊以内(大学院生は20冊まで)返却期限は9月18日(火)まで。

○夏季休暇中の開館および休館

開館 日曜日を除く毎日 9:15~21:00

休館 7月23日(月)、24日(火)は職員夏期修養会のため。

8月13日(月)、14日(火)、15日(水)は夏季特別一斉休暇のため。

1階学習室は休暇中閉室

○卒業年次生のための特別利用

①貸 出

卒論作成のための貸出があります。通常の貸出のほかに3冊以内、1ヵ月間利用することができます。グリーンの卒論用帯出証で利用します。

②先輩の卒業論文の閲覧

卒論作成の参考に諸先輩の卒論を閲覧することができます。

①、②いずれもゼミ担当教授の承認を得なければなりませんので、希望者はあらかじめ受付に申し出て用紙の交付をうけてください。

編 集

この館報も創刊以来100号を迎えることになった。創刊が1955年ということなので、ほぼ30年間続いてきたことになる。これを記念して、このようなささやかな100号記念特集号を刊行した。学長からご祝辞をいただき、またお二人の元館長から当時の思い出を記していただいた。まさに生きた記録である。

日常業務をぬっての編集、統計、年表その他調査

後 記

が思うにまかせず、誤りなきにしもあらずと思う。すべて編集委員会の責任である。ご教示いただければ喜んで訂正したい。

今、このような記念特集号を刊行できたことに、編集委員全員がささやかな喜びを見いだしている。ご協力ありがとうございました。今後ともなお一層のご理解とご協力をお願いしたい。

(今永記)

昭和59年度 指定図書目録

(Reserved Books)

指定図書とは、講義担当の先生方が、その講義に直接関連して学生に必ず参考にしてもらいたい図書を指定されたものです。年間を通じて2階閲覧室に備えております。なお、講義区分は学生便覧を参考にしました。

教養課程・文学部（国際文化）

平野 正 <東洋史学>

- アジア現代史 全4巻 歴史学研究会 青木書店
 中国近現代史（上・下） 姫田光義（他） 東大出版会
 ドキュメント昭和史 全10巻 林茂（他） 平凡社
 昭和の歴史 全10巻 中村政則（他） 小学館
 太平洋戦争史 全6巻 歴史学研究会 青木書店

<世界史概論>

- 江口朴郎著作集 1～5 青木書店
 第三世界への視点 土生長穂（他） 大月書店
 現代と史的唯物論 浜林正夫 大月書店
 自主管理社会主義と非同盟 カルデリ 大月書店
 戦後世界政治と非同盟 土生長穂 大月書店

菱谷 晋介 <心理学(1)～(4)>

- チンパンジーの知能 岡野恒也 ブレーン出版
 動物に心があるか グリフィン 岩波書店
 学習と教授の心理学 山内光哉 九大出版会
 記憶のメカニズム 高木貞敬 岩波書店
 人間の情報処理 ルーメルハート サイエンス社

磯 望 <自然地理学>

- 地震の科学 地震学会 保育社
 火山 伊藤和明 保育社
 弧状列島 上田誠也（他） 岩波書店
 日本の地形 貝塚爽平 岩波書店
 日本の火山地形 守屋以智雄 東大出版会

<地理学>

- 第4紀 成瀬 洋 岩波書店
 日本の自然 中野尊正（他） 岩波書店
 日本列島 湊正雄（他） 岩波書店
 沖積平野 井関弘太郎 東大出版会
 自然環境の生いたち 田淵洋 朝倉書店

岩尾 龍太郎 <倫理学>

- フョイエルバッハ全集 福村出版

- ヘーゲル政治哲学講義 藤原保信 御茶の水書房
 ヘーゲル存在論と歴史性の理論 マルクゼ 未来社
 人間論の可能性 鷺田小弥太（他） 北樹出版

<哲学概論>

- 現代のための哲学1～3 青木書店
 カントと形而上学 ハイムゼート 以文社
 近代市民社会の哲学 佐藤和夫（他） 青木書店
 講座哲学 全3巻 市川佳宏（他） 学習の友社
 哲学を学ぶひとのために 岩崎允胤（他） 白石書店

<倫理思想史>

- ベルリンのヘーゲル ドント 法政大学出版
 美学 上・中・下（各1～3） ヘーゲル 岩波書店
 ヘーゲルの生涯 ローゼンクランツ みすず書房
 ヘーゲル哲学の形成と原理 加藤尚武 未来社
 哲学史 上・中・下 ヘーゲル 岩波書店

<文献講読I>

- イギリス社会史 I・II トレヴァリアン みすず書房
 ロンドン庶民生活史 ミッチェル（他） みすず書房
 サミュエル・ジョンソン伝 I～III ボズウェル みすず書房

- The rise of the novel Watt Pelican
 ヨーロッパ精神の危機 アザール 法政大学出版

久屋 孝夫 <英語(ク・ケ・タ)>

- 英語でロジックに強くなる 松本道弘 講談社
 英語不得意者同盟 玉井辰夫 自由国民社
 偏見の構造・日本人の人種観 我妻洋（他）

NHKブックス

- 翻訳学問批判 柳父章 日本翻訳家養成センター
 ジャパリッシュのすすめ 渡辺武達 朝日新聞社
 日本人は「日本的」か 杉本良夫（他）

東洋経済新報社

- 日本人論に関する12章 杉本良夫（他） 学陽書房
 欧米人が沈黙するとき 直塚玲子 大修館
 理科系の作文技術 木下是雄 中央公論社

- 松 井 美智子 <美術史>
 アイデアの宿り 辻成史 新潮社
 ビザンチン美術・ロマネスク美術 ルメルル(他) 美術出版社
 ゴシック美術 ランベール 美術出版社
 ギリシアの美術 沢柳大五郎 岩波書店
 ヨーロッパのキリスト教美術 マール 岩波書店
 <西洋美術史>
 バロック芸術 タビエ 白水社
 美術アカデミーの歴史 ベウスナー 中央大学出版
 群集のなかの芸術家 阿部良雄 中央公論社
 近代画家論 ヴェントゥーリ 角川書店
 古典主義美術 パリゼ 岩崎美術社
- 松 本 達 雄 <自然科学概論>
 科学とは何か 八杉龍一 東京教学社
 新自然科学概論 科学同人研究会
 <地学>
 新しい地球観 上田誠也 岩波書店
 地球史 小嶋稔 岩波書店
 宇宙・地球・人間 I・II クラウド 岩波書店
 <進化論>
 The history of life. McAlester Prentice-Hall
 人類進化学入門 塩原和郎 中央公論社
 化石サルから日本人まで 鈴木尚 岩波書店
 Man, the tool-maker. Oakley. British Museum
- 松 村 敬 治 <化学1・2・3>
 物質とは何か 水島三一郎 講談社
 化学元素物語 カレーリン 東京図書
 くすりの小事典 坂本正明 朝日新聞社
 身近な現象の化学 日本化学会 培風館
 最新化学への招待 朝日新聞社科学部 朝日新聞社
 <化学4>
 分子の構造をきめる バロー 化学同人
 物理学読本 朝永振一郎 みすず書房
 化学結合を考える 飯島孝夫(他) 講談社
 量子力学の世界 片山泰久 講談社
 単位の進化 高田誠二 講談社
- 宮 川 政 <比較文化方法論>
 文化の協応 中田光雄 東大出版会
 地球文化のゆくえ 馬場伸也 東大出版会
 比較文学 中島健蔵 清水弘文堂
 比較文化社会学 折原浩 筑摩書房
 比較文化と精神医学 荻原恒 至文堂
 <西洋文学> <ドイツ文学概論> <文献講読II>
 ドイツ文学史 藤本淳雄(他) 東大出版会
- ドイツ文学史 フリッツ 三修社
 ドイツ文学小史 ルカーチ 岩波書店
- 森 泰 男 <キリスト教II>
 現代神学の状況 ガイヤー 日基督教団出版
 批判的信仰の論拠 タイセン 岩波書店
 キリスト教思想史入門 金子晴勇 日基督教団出版
 無神論 アルヴォン 白水社
 内面への旅 ゼレ 新教出版社
 <キリスト教III>
 フランスの旅 田辺保 日基督教団出版
 森有正全集 筑摩書房
 パスカル メナール ヨルダン社
 パスカル著作集 教文館
 パスカルにおける人間の研究 三木清 岩波書店
 <キリスト教IV>
 女性解放とキリスト教 クライスト 新教出版社
 カール・バルトの人間論 上田光正 日基督教団出版
 教会と第二の性 ティリー 未来社
 道の学び 猪城博之 梓書院
 創造論I・II バルト 新教出版社
 <地域文化概論>
 プレンナー峠を越えて 小塩節 音楽の友社
 中世の春 柏木英彦 創文社
 キリスト教の伝統形成者 マクネル 木鐸社
 個人の発見 モリス 日基督教団出版
 ヨーロッパの形成 ピレンヌ 創文社
 <西洋中世哲学思想>
 アウグスティヌスの人間学 金子晴勇 創文社
 シャトレ哲学史II シャトレ 白水社
 中世哲学史 コブルストン 創文社
 西洋哲学史II ヒルシュベルガー 理想社
 初期キリスト教とバイティア イェーガー 筑摩書房
 <演習>
 評論「自由意志」 エラスムス 聖文舎
 自由からの逃走 フロム 東京創元社
 カラマーゾフの兄弟 ドストエフスキー 河出書房新社
 ルターの人間学 金子晴勇 創文社
 人間における自由 フロム 東京創元社
 <古典語I>
 ケンブリッジラテン語講座 関野清 泰流社
 神田盾夫著作集1~4 みすず書房
 古典ヒューマンイズムの形成 グウィン 創文社
 Ovidiana 久保正彰 青土社
 ヨーロッパの言語 泉井久之助 岩波書店

中 島 和 男 <ドイツ語 上級>

Deutsches universal Wörterbuch. Duden

<演習>

ドイツ文学史 マルティニー 三修社

ドイツロマン派運動の本質 石井晴夫 南江堂

ドイツロマン派全集 全10巻 国書刊行会

Gesammelte Werke Thomas Mann. Fischer Bücherei

Theorie des romans. Hillebrand Dtv.

中 村 栄 子 <西洋文学>

フランス文学講座 全6巻 大修館

フランス文学史 饗庭孝男(他) 白水社

立体フランス文学 篠沢秀夫 朝日出版

中 村 和 夫 <キリスト教学Ⅰ>

現代新約聖書入門 ハンター 新教出版社

旧約聖書 関根正雄 創元社

旧約聖書概論 木田献一 聖文舎

旧約聖書概説 高橋虔 日基督教団出版

聖書概説 八田正光 ヨルダン社

聖書の思想 秋田稔 塙書房

総説新約聖書 荒井献(他) 日基督教団出版

西 嶋 幸 右 <西洋文化史>

フランス百科全書の研究 桑原武夫 岩波書店

モンテスキュー 古賀英三郎 講談社

ヴォルテールの世界 高橋安光 未来社

<地域文化特講>

ルソー研究 桑原武夫 岩波書店

ルソー論集 桑原武夫 岩波書店

ルソー全集 白水社

大 内 和 臣 <国際関係論>

現代国際関係論 花井等 ミネルヴァ書房

国際関係論講義 浦野起央 青林書院

斎 藤 末 弘 <文献講読Ⅱ>

鑑賞日本現代文学推名麟三、遠藤周作 佐藤泰正 角川書店

<演習>

太宰治と聖書 佐古純一郎 教文館

佐々木 武 夫 <社会学>

変革期における人間と社会 マンハイム みすず書房

近代日本の精神構造 神島二郎 岩波書店

政治・社会論集 ウェーバー 河出書房新社

社会理論と社会構造 マートン みすず書房

シート、L・K・ <キリスト教学Ⅱ>

一粒の麦死なずば 宮田光雄 新教出版社

人は何によって生きるか 松永晋一 新教出版社

キリスト教入門 武藤富男

善本社

<キリスト教学Ⅲ>

現代における神の問題 山本和 創文社

神を問う ティーリケ ヨルダン社

キリスト教の精髓 ルイス 新教出版社

奇跡 ルイス みくに書店

聖書のことば 宮本武之助 潮文社

<キリスト教学Ⅳ>

わたしの歩んだ現代 飯沼二郎 日基督教団出版

戸 星 善 宏 <ドイツ語学概論>

Deutsch als Fremdsprache und neue Linguistik

Werner Hueber

<文献講読>

Die deutsche Sprache. Behaghel Max Niemeyer

和 田 正 広 <東洋史>

アジア歴史研究入門 全5巻 宮崎市定(他) 同朋舎

中国へのアプローチ 今堀誠二(他) 勁草書房

中国人(上・下) バターフィールド 時事通信社

中国家族法の原理 滋賀秀三 創文社

中国近現代史(上・下) 田中正俊(他) 東大出版会

中国史研究入門(上・下) 山根幸夫(他) 山川出版社

中国思想のフランス西漸1・2 後藤末雄 平凡社

イエズス会中国書簡集 矢沢利彦 平凡社

講座中国近現代史1~7 田中正俊 東大出版会

歴史家の同時代史的考察について 増淵龍夫 岩波書店

安 永 光 彦 <体育理論>

栄養と運動と健康 今野道勝 朝倉書店

現代人の健康と運動 川村仁視 杏林書院

からだの科学選書 一思春期一 船川幡夫(他)

日本評論社

日常生活に生かす運動処方 青木純一郎(他)

杏林書院

体力・健康概論 幸山彰一 杏林書院

文学部(英語・英文)

安 徳 典 光 <英作文(英専2)>

英文レポートの書き方入門 コリンズ

秀文インタナショナル

現代英語ハンドブック スコットフォースマン

秀文インタナショナル

現代英語書き方事典 スコットフォースマン

秀文インタナショナル

- パン英文書き方基礎講座 パン社
秀文インタナショナル
パン英文手紙の書き方小事典 パン社
秀文インタナショナル
＜英作文(英専3)＞
About language: context for college writing.
Warringer 洋販
Common mistakes in English. Fitkides 洋販
English grammar and composition. Warringer 洋販
Handbook of contemporary English. Meyer 洋販
Teaching language, composition and literature.
Fowler 洋販
- 江崎 義彦 ＜英文学講読(詩)(LIIイ)＞
ブレイクの生涯と作品 並河亮 原書房
イギリス・ロマン派詩人 磯田光一 河出書房
コールリッチの研究 桂田利吉 法政大学出版
自然と自我の原風景(上) 野島秀勝 南雲堂
＜英米文学特殊講義＞＜特殊講義(LII&III)＞
John Keats: poems of 1820 & the fall of hyperion.
床尾辰男(他) 北星堂
キーツ: その夢と現実 松浦暢 吾妻書房
ロマン主義と想像力 バウラ みすず書房
詩人の手紙 キーツ 富山房
ユング著作集 全5巻 日本教文社
＜英文学講読(詩)(LIV)＞
Samuel Taylor Coleridge: selected poems.
Edamura 旺史社
Select poems of W. Blake. Sangu 研究社
Select poems of J. Keats. Saito 研究社
Select poems of P. B. Shelley. Saito 研究社
Select poems of W. Wordsworth. Sawamura 研究社
- 福田 靖 ＜貿易論＞＜実務英語講読＞
実務英語入門 児島晃(他) 南雲堂
テキストブック貿易実務 来住哲二 有斐閣
＜商業英語＞＜演習＞
Business English and communication. 5th ed.
Stewart Gregg
Business letters for all. Naperop Oxford Univ.
英文ビジネスレターの技法 平田重行 タイヤモンド社
国際電信英語のすべて 長野格 南雲堂
Longman dictionary of business English. Longman
- 古屋 靖二 ＜演習＞
Shakespeare: Antony and Cleopatra. Brown
Macmillan
- Shakespeare: Antony and Cleopatra. Lee
Edward Arnold
- 泉 マス子 ＜スピーチA＞
Basic oral communication. Capp Prentice-Hall
Speech communication and human interaction. 2nded.
Scheidel Scott, Foresman
＜スピーチB＞
Fundamentals of oral interpretation. Smith
S R A
The fundamentals of storytelling. Hunsinger 英潮社
Improving oral English through choral speaking.
Larson 学書房
Stortelling handbook Breneman 学書房
＜コミュニケーション概論＞
The Functions of human communication. Dance
Holt
Intercultural communication. Somouer
Wadsworth
Kinesics and context. Birdwhistell Ballantine
Nonverbal communication in human interaction
Knapp Holt
The process of communication. Berlo Rinhart
- 川瀬 義清 ＜英文法＞
言語の構造・意味・統語篇 柴谷方良(他)
くろしお出版
変形文法の視点 原口庄輔 ごびあん書房
形式と意味 チョムスキー 研究社
機能英文法 村田勇三郎 大修館書店
＜演習＞
コンピュータ言語学入門 草薙裕 大修館書店
談話の文法 久野瞳 大修館書店
言語心理学のすすめ 入谷敏男 大修館書店
新日本文法研究 久野瞳 大修館書店
- 黒瀬 保 ＜英文学批評＞
異界 黒瀬保 三省堂
- 久屋 孝夫 ＜英文法＞
ことばと空間 牧野成一 東海大学出版会
Linguistics and literature Chapman E. Arnold
Linguistics for students of literature Tragott
H B J
日本語から日本人を考える 荒木博之 朝日新聞社
「する」と「なる」の言語学 池上嘉彦 大修館書店
＜英作文＞
悪文(第三版) 岩淵悦太郎 日本評論社

- | | | | |
|--|-------|--------------------------|-------|
| 文章表現十二章 木原茂 | 三省堂 | 事典・現代のフランス 新倉俊一(他) | 大修館書店 |
| 英語を書く本 室勝 | 洋販 | 日・英・西・仏対照貿易通信四ヶ国語事典 羽田三郎 | 大修館書店 |
| 現代文章宝鑑 小田切秀雄(他) | 柏書房 | | |
| Mutual understanding of different cultures | | | |
| Naotsuka | 大修館書店 | | |
- 文学部 (児童教育)**
- | | | | |
|---|--------------|--------------------------|---------|
| 佐渡谷 重 信 <アメリカ文学史> | | 岩 城 富美子 <児童心理学Ⅰ・Ⅱ> | |
| アメリカ文学の自己発見 尾形敏彦 | 山口書店 | 新しい児童心理学 ピアジェ(他) | 白水社 |
| アメリカ文学の新展開 尾形敏彦 | 山口書店 | 児童心理学 藤永保 | 有斐閣 |
| アメリカ古典文庫 1~24 | 研究社 | 改訂幼児心理学 山下俊郎 | 朝倉書店 |
| 概説アメリカ文学史 横沢四郎 | 金星堂 | | |
| <演習> | | <演習> | |
| Edgar Allan Poe Quin | F. S. Croft. | 母子関係入門 ボウルビー | 星和書店 |
| エドガー・アラン・ポー 八木敏雄 | 冬樹社 | 児童心理学三つの理論 メイヤ | 黎明書房 |
| The life and works of Edgar Allan Poe Bonaparte | Hogarth | 堺 太 郎 <演習> | |
| ポーとボードレール クィン | 北星堂 | 障害児教育 中野善達 | 福村出版 |
| Poe's fiction Thompson Univ. of Wisconsin. | | 障害児教育の思想 伊藤隆二 | ミネルヴァ書房 |
| <比較文学> | | 障害児の早期教育 村井潤一 | ミネルヴァ書房 |
| 比較文学 ティーグム | 清水弘文堂 | 障害のある子どもの保育 山片正昭 | 教育出版 |
| 比較文学 吉田精一(他) | 潮文社 | 統合教育 辻村泰男 | 福村出版 |
| 決定版夏目漱石 江藤淳 | 新潮社 | <児童福祉学> | |
| 漱石とアーサー王伝説 江藤淳 | 東大出版会 | 光ほのかねど 上笠一郎 | 朝日新聞社 |
| 漱石と世紀末芸術 佐渡谷重信 | 美術公論社 | 保育を学ぶものための児童福祉 吉田宏岳 | 福村出版 |
| 武 井 俊 詳 <演習> | | | |
| A consumer's view of how advertising works | | 児童福祉 井垣章二 | ミネルヴァ書房 |
| Ogily | Longman | 児童福祉 林千代 | 相川書房 |
| Creating reality Altheide | Sage | 児童福祉の理論と実践(補訂版) 井上肇 | 川島書店 |
| English in advertising Leech | Longman | <社会福祉学Ⅰ> | |
| Gender advertisements Goffman | Macmillan | 教養としての社会福祉 吉田宏岳 | 川島書店 |
| Image formation and cognition Horowitz | Meredith | 入門社会福祉 大塚達雄 | ミネルヴァ書房 |
| | | 社会福祉の基礎知識 小倉襄 | 有斐閣 |
| | | 社会事業に生きた女性たち 五味百合子 ドメス出版 | ドメス出版 |
| | | 続・社会事業に生きた女性たち 五味百合子 | ドメス出版 |
- 文学部 (仏語・仏文)**
- | | | | |
|-------------------------|-------|------------------|-------|
| 有 田 忠 郎 <フランス文学概論> | | <社会福祉学Ⅱ> | |
| フランス文学講座 全6巻 阿部良雄(他) | 大修館書店 | ケースワークの基礎知識 小松源助 | 有斐閣 |
| フランス文学史 饗庭孝男(他) | 白水社 | グループワーク教室 福田垂穂 | 有斐閣 |
| <フランス文学講読(詩)> | | 日本のケースワーク 松本武子 | 家政教育社 |
| フランス文学講座 第3巻(詩) 阿部良雄(他) | 大修館書店 | 社会福祉の方法 重田信一 | 川島書店 |
| | | ソーシャルワークの基礎 吉沢英子 | 相川書店 |
| やさしいフランス詩法 杉山正樹 | 白水社 | <養護原理Ⅱ> | |
| 富 盛 伸 夫 <商業フランス語> | | 愛と共感の教育 糸賀一雄 | 柏樹社 |
| フランス語経済記事の読み方 松本正 | 有斐閣 | 福祉の思想 糸賀一雄 | NHK出版 |
| | | 心身障害者福祉 小島蓉子 | 誠信書房 |

- 障害をもつ人達と共に 大塚達雄 ミネルヴァ書房
 障害者福祉はいま 児島美都子 ミネルヴァ書房
 <保育実習Ⅰ・Ⅱ>
 保育実習 待井和江 ミネルヴァ書房
 保育実習 岡田正章(他) 医歯薬出版
 保育実習の手引き 中央幼児教育研究会 学芸図書
 障害児保育ハンドブック 新村豊 黎明書房
 幼稚園・保育園実習の常識 教育・保育を考える会
 ミネルヴァ書房
 <保育実習Ⅲ>
 児童福祉施設実習総論 相川書房
 児童養護実習 斎藤謙 川島書店
 社会福祉施設実習 大塚達雄 ミネルヴァ書房
 施設保育・養護の実際(改訂版) 小林提樹
 日本小児医事出版
 施設実習の常識 教育・保育を考える会 蒼丘書林
 白 樫 三郎 <社会心理学>
 現代の心理学 浜田哲郎 朝倉書店
 現代社会心理学 大橋正夫 朝倉書店
 グループ・ダイナミックスⅠ・Ⅱ カートライト
 誠信書房
 人間関係の社会心理学 古畑和孝 サイエンス社
 集団システム論 テーラー 誠信書房
- 商 学 部**
- 古 林 輝 久 <経営労務論>
 人事労務の新路線 森五郎 泉文堂
 労働の人間化の労使関係 嶺学 日本労働協会
 労働の哲学 内山節 田畑書店
 生産の鏡 ボードリヤール 法政大学出版
 <労務管理論>
 現代人事・労務管理論 藤田忠 白桃書房
 現代日本企業と人事管理 木元進一郎 労働旬報社
 現代の日本的経営 津田真徹 有斐閣
 現代の労務管理と労使関係 津田真徹 有斐閣
 労務管理 山本勝也 泉文堂
 後 藤 泰 二 <保険論>
 保険概論(新版) 木村栄一(他) 有斐閣
 保険経済概論 馬場克三 国元書房
 社会科学としての保険論 本間照光(他) 汐文社
 <企業形態論>
 現代株式会社の支配機構 片山伍一 ミネルヴァ書房
 法人資本主義 奥村宏 御茶の水書房
- 企業の論理 小松章 三嶺書房
 日本人企業の所有構造 三戸浩 文真堂
 わが国株式会社の支配 平田光弘 千倉書房
 浜 田 和 樹 <分析会計論>
 分析会計論 増谷裕久 中央経済社
 経営分析入門 阪本安一 中央経済社
 経営分析総論 染谷恭次郎(他) 同文館
 資金管理論 後藤幸男 中央経済社
 財務分析入門 加藤勝康 銀行研修社
 <演習Ⅰ・Ⅱ>
 安定性分析 染谷恭次郎(他) 同文館
 会計総論 横浜市大会計学研究室 同文館
 管理会計論 横浜市大会計学研究室 同文館
 入門利益計画 溝口一雄 中央経済社
 収益性分析 染谷恭次郎(他) 同文館
 井 上 康 男 <原価計算論>
 原価計算の基礎知識 石尾登 税務経理協会
 原価計算論 佐藤精一 同文館
 最新経営分析 松本雅男(他) 千倉書房
 租税法の基礎理論 租税法学会 有斐閣
 租税法実体法(増補版) 松沢智 中央経済社
 <管理会計論>
 現代管理会計論(新版) 青木茂男 国元書房
 経営分析(三訂版) 染谷恭次郎 国元書房
 経営計画と経営分析 後藤幸男 税務経理協会
 資金管理の基礎 染谷恭次郎 国元書房
 要説所得税法 小松崎亮也 税務経理協会
 糸 園 辰 雄 <中小企業論>
 現代日本の流通機構 糸園辰雄(他) ミネルヴァ書房
 経営革新と流通支配 ポーター ミネルヴァ書房
 <演習Ⅱ>
 不安定就業労働者(上・下) 御茶の水書房
 小 森 俊 介 <演習Ⅰ>
 需要と供給の世界 林敏彦 日本評論社
 日本のマーケティング 吉野洋太郎 ダイアモンド社
 生活財生態学 商品科学研究所 リプロポート
 <マーケティング論>
 動態的マーケティング行動 オルダーソン 千倉書房
 小売吸引力の理論と測定 中西正雄 千倉書房
 マーケティング競争の構造 石原武政 千倉書房
 マーケティング・サイエンスの系譜 荒川祐吉
 千倉書房
 商学原理 荒川祐吉 中央経済社
 <広告論>
 現代人の情報行動 中野収 NHK出版

- 広告管理(上・下) メーアー 東洋経済新報社
 メディアの快楽 中野収 勁草書房
大 矢 繁 夫 <証券論>
 アメリカの金融自由化 カーギル 東洋経済新報社
 株式会社の経済学説 鈴木芳徳 新評論
 金融資本論研究 松井安信 北大図書刊行会
 日本の証券市場 川合一郎 東洋経済新報社
 証券市場読本 中村孝俊 東洋経済新報社
 <演習Ⅰ・Ⅱ>
 アジアの金融市場 李繩毅 東洋経済新報社
 アメリカの金融革命 伊藤政吉 有斐閣
 アメリカの金融市場 佐久間潮 東洋経済新報社
 インターナショナル・マネー キンドル 産業能率大学出版
 ユーロ・バンキング 布目真生 日経新聞社
佐々木 武 夫 <経営社会学>
 脱工業化の社会 トウレーヌ 河出書房新社
 現代日本の企業と社会 今井賢一(他) 日経新聞社
 工場の哲学 中岡哲郎 平凡社
 日本的経営の転機 安藤喜久雄 有斐閣
 産業社会の病理 村上泰亮 中央公論社
白 樫 三四郎 <外書講読Ⅰ>
 現代アメリカ社会心理学 田中靖政 日本評論社
 教育心理学 遠藤辰雄 学術図書出版
 教育心理学 成瀬悟策 ブレーン出版
 日本の社会心理学 横田澄司 朝倉書店
 人間行動の心理学的考察 佐久間章 アカデミア出版会
 <外書講読Ⅲ>
 西南学院大学商学論集 19巻3号、21巻4号、
 22巻2・3号、25巻3号、27巻2号、
 29巻3・4合併号 西南学院大学
 <経営心理学>
 経営人事心理学 松浦健児 朝倉書店
 企業と組織 横田澄司(他) 至文堂
 職場の人間行動 山田雄一(他) 有斐閣
 組織の行動科学 リカート ダイアモンド社
 組織と人間行動 関本昌秀 泉文堂
田 村 茂 夫 <商法A(1)>
 脱資本主義分析 西山忠範 文真堂
 現代企業の支配構造 西山忠範 有斐閣
 現代的企業法論 中村一彦 商事法務研究会
 企業法の諸問題 矢沢惇 商事法務研究会
 企業会計法の理論 矢沢惇 有斐閣
田 中 謙一郎 <演習Ⅰ・Ⅱ>
 ゲーム理論入門 鈴木光男 共立出版
 計算機の歴史 ゴールドスタイン 共立出版
 経済数学早わかり 西村和雄 日本評論社
 数理計画法入門 石井五郎 サイエンス社
 <経営工学>
 需要予測とコンピュータプログラム 大西正和 日刊工業新聞社
 経営のための多変量解析法 本多正久 産業能率大学出版
 経済学のためのゲーム理論 バカラック 東洋経済新報社
 企業モデルとシミュレーション 守谷栄一 マグロウヒル好学校
 応用多変量解析 ホルチ 森北出版
山 田 洋 <憲法Ⅲ>
 田中二郎先生古稀記念 公法の理論(上、中、下Ⅰ、Ⅱ) 雄川一郎(他) 有斐閣

経済学部

吾 郷 健 二 <国際経済論>
 現代の世界経済 木下悦二 有斐閣
 原子力の経済学 室田武 日本評論社
 経済人類学 栗本慎一郎 東洋経済新報社
 世界経済の構造と展開 有賀定彦(他) ミネルヴァ書房
 資源物理学入門 槌田敦 N H K 出版
 <低開発国経済論>
 現代世界とラテンアメリカ 西向嘉昭 晃洋書房
 従属的蓄積と低開発 フランク 岩波書店
 ラテンアメリカの経済 細野昭雄 東大出版会
 メキシコ経済論 湯浅摂子 大明堂
 世界資本主義と低開発 フランク 拓植書房
 <外書講読Ⅲ>
 エネルギーと公正 イリイチ 晶文社
 脱病院化社会 イリイチ 晶文社
 脱学校の社会 イリイチ 東京創元社
 学校・医療・交通の神話 山本哲士 新評論
 人類の希望 イリイチ 新評論
 シェドウ・ワーク イリイチ 岩波書店
 <演習Ⅰ>
 エコノミーとエコロジー 玉野井芳郎 みすず書房

- 経済学の神話 ジョージ・ジェス・レーゲン
東洋経済新報社
- 経済発展の生態学 ウィルキンソン 筑摩書房
- 人間・自然・エネルギー オダム 共立出版
- 人間復興の経済 シューマッハー 佑学社
- ＜演習Ⅱ＞
- 不均等発展 アミン 東洋経済新報社
- 不等価交換と価値法則 アミン 亜紀書房
- 南北問題の現代的構造 本多健吉 日本評論社
- 帝国主義と不均等発展 アミン 第三書館
- 帝国主義と従属 ドス＝サントス 拓植書房
- 古川 卓 萬 ＜財政学総論＞
- 日本の財政金融政策 吉田和男 東洋経済新報社
- 日本財政要覧 武田隆夫(他) 東大出版会
- 戦後税制史 佐藤進 税務経理協会
- 租税政策の理論 山本栄一 有斐閣
- 財政 牛島正 東洋経済新報社
- 今村 昭 夫 ＜日本経済事情＞
- 柔構造の日本経済 竹内宏 朝日新聞社
- 高度成長の時代 香西泰 日本評論社
- 九州経済白書 昭和58年度 九州経済調査協会
- 日本経済の見方 金森久雄 中央経済社
- 日本経済論 正村公宏 東洋経済新報社
- 井坂 文 夫 ＜国民所得論＞
- 検証石油危機の時代 並木信義 日経新聞社
- 金融 岩田規久男 東洋経済新報社
- マクロ経済学 小泉進 有斐閣
- 入門マクロ経済学 中谷巖 日本評論社
- テキストブック日本経済 新飯田宏 有斐閣
- ＜演習Ⅰ＞
- マクロ経済学入門 中谷巖 日経新聞社
- ミクロ経済学入門 奥野正寛 日経新聞社
- プログラム学習による経済数学入門Ⅰ～Ⅲ
マーチン 学習研究社
- ＜演習Ⅱ＞
- 為替レートと金融市場 深尾光洋 東洋経済新報社
- 金融理論 工藤和久 有斐閣
- 国際金融論 天野明弘 筑摩書房
- 国際マクロ経済学と日本経済 植田和男
東洋経済新報社
- 日本経済 吉富勝 東洋経済新報社
- 川島 信 義 ＜経済学史＞
- ディヴィッド・リカード全集 全10巻 雄松堂
- 国富論 スミス 中央公論社
- Principles of economics Marshall Macmillan
- 木村 毅 ＜社会政策総論＞
- 現時の労働問題 隅谷三喜男 日本労働協会
- 女子労働論 竹中恵美子 有斐閣
- 日本の賃金・労働時間 山本潔 東大出版会
- 労働史の研究 大前朔郎 啓文社
- 社会政策の現代的課題 飯田鼎(他) 御茶の水書房
- ＜社会政策各論＞
- 福祉政策と財政 藤田晴 日経新聞社
- 変わりゆく婦人労働 高橋久子 有斐閣
- 年金制度の経済分析 スタイン 千倉書房
- 戦後日本資本主義史 正村公宏 日本評論社
- 失業の経済学 日経新聞社
- ＜演習Ⅰ・Ⅱ＞
- ヘッド・ハンター 早瀬利三 法会総合出版
- 人口問題の基本考察 南亮三郎(他) 千倉書房
- 高齢化社会を生きる 東洋経済新報社
- 講座社会福祉 第8巻 高齢化社会と社会福祉
有斐閣
- 先進国失業の構造 水野朝夫(他) 有斐閣
- 柴田 徳太郎 ＜金融論＞
- 現代金融の理論 小野英祐(他) 時潮社
- 現代金融の理論と構造 志村嘉一(他)
東洋経済新報社
- 現代の金融経済 岡本肇男(他) 世界書院
- 経済学(2) 桜井毅(他) 有斐閣
- ＜外書講読Ⅱ＞
- 現代日本経済論 吉富勝 東洋経済新報社
- 日本経済 中村隆英 東大出版会
- 日本経済 吉富勝 東洋経済新報社
- ＜演習＞
- 現代の景気と恐慌 大内力 有斐閣
- 現代の公社債市場 1～5 日経新聞社
- 金融・証券講座 1～5 東洋経済新報社
- 日本経済 吉富勝 東洋経済新報社
- 体系金融実務事典 小泉明(他) 青林書院新社
- ＜演習Ⅱ＞
- 現代日本金融論 鈴木淑夫 東洋経済新報社
- 管理通貨制とインフレ機構 岡本肇男 有斐閣
- 日本経済と金融 鈴木淑夫 東洋経済新報社
- 日本金融年表・統計 石川通達(他) 東洋経済新報社
- わが国の金融制度 日銀調査局 日本信用調査出版
- 新谷 正 彦 ＜計量経済学＞
- 計量経済学序説(上・下) タイル 東洋経済新報社

計量経済学序説 ウォナコット 培風館
 計量経済学の方法(上・下) ジョンストン 東洋経済新報社
 計量経済学のすすめ 西川俊作 毎日新聞社
 社会人のための計量経済学 建元正弘(他) 日経新聞社

<演習 I>

LISP ウインストン 培風館
 PASCAL イエンゼン 共立出版
 PASCAL入門 川合慧 共立出版
 PASCAL プログラミング講義一 森口繁一(他) 共立出版
 PASCAL プログラミング対話一 森口繁一(他) 共立出版

<演習 II>

アルゴリズム+データ構造=プログラム
 ヴィルト 日本コンピュータ協会
 系統的プログラミング入門 ヴィルト 近代科学社
 PASCAL演習 森口繁一(他) 近代科学社
 PASCALプログラミング 米田信夫(他) サイエンス社

プログラム書法(第二版) カーニハン 共立出版

田村茂夫 <商法A(1)>

脱資本主義分析 西山忠範 有斐閣
 現代企業の支配構造 西山忠範 有斐閣
 現代的企業法論 中村一彦 商事法務研究会
 企業法の諸問題 矢沢淳 商事法務研究会
 企業会計法の理論 矢沢淳 有斐閣

山田 洋 <憲法III>

田中二郎先生古稀記念 公法の理論(上・中・下I・II)
 雄川一郎(他) 有斐閣

法 学 部

平田勝雅 <刑事訴訟法>

注解刑事訴訟法(上・中・下) 平場安治(他) 青林書院新社
 注釈刑事訴訟法 全4巻 青柳文雄(他) 立花書房
 刑事訴訟行為論 光藤景皎 有斐閣
 刑事訴訟の原理 松尾浩也 東大出版会
 刑事手続構造論の展開 井戸田侃 有斐閣

堀 真 清 <政治史>

近衛体制 伊藤隆 中央公論社

近衛体制と大政翼賛会 赤木須留喜 岩波書店
 日本内閣史録 全6巻 林茂(他) 第一法規
 夢いまだ成らず 尾崎秀樹 中央公論社

<外書講読>

アジアの開発と民衆 隅谷三喜男(他) 日本YMCA
 Japan: divided politics in a growth economy.

Stockwin Norton.

キッシンジャー秘録 全5巻 キッシンジャー 小学館

<演習>

Comparative government Deutsch (et al) Houghton Mifflin

現代日本の政治 ストックウィン 木鐸社
 近代日本の政治文化と言語象徴 石田雄 東大出版会
 日本の政治 京極純一 東大出版会

今井 威 <憲法>

憲法(1)~(4) 阿部照哉(他) 有斐閣

河島幸夫 <政治学原論>

一般国家学 イエリネック 学陽書房
 憲法論 シュミット みすず書房
 基本的人権の歴史 阿部照哉(他) 有斐閣
 政治学への道案内 高島通敏 三一書房
 政治学史 福田歓一 東大出版会
 政治論集 全2巻 ウェーバー みすず書房

<政治思想史>

原典宗教改革史 中村賢二郎(他) ヨルダン社
 近代政治思想の再検討 全5巻 プラムナッツ 早大出版部

西洋政治思想史(I・II) 今中次磨 大明堂
 宗教改革とドイツ政治思想 有賀弘 東大出版会
 トレルチ著作集 第3・5・8・9巻 ヨルダン社

<外書講読I>

ベルリン 1928-1933年 平井正 せりか書房
 ドイツ人民の歴史 シュトライザンド 未来社
 ドイツ政治外友史 全3巻 ライダー 新有堂
 ドイツ史研究入門 西川正雄 東大出版会
 ワイマル共和国史 1~4 アイク ベリかん社

<外書講読II>

ドイツの近代法学 村上淳一 東大出版会
 ドイツ帝国 ヴェーラー 未来社
 クルップの歴史 全2巻 マンチェスター フジ出版
 ナチスの時代 マウ 岩波書店
 世界強国への道I・II フィッシャー 岩波書店

<演習>

ドイツ法学者事典 クラインハイヤー 学陽書房

- 黄色の星 シェーンベルナー 自由都市社
マックス・ウェーバー入門 アブラモフスキー 創文社
- ナチス治下の民衆生活 村瀬興雄 東大出版会
ナチズム体制の成立 栗原優 ミネルヴァ書房
- 小 杉 茂 雄 <民法Ⅰ>
民法総則 (第二版) 幾代通 青林書院新社
<民法Ⅱ>
新訂物権法 我妻栄 岩波書店
担保物権法 (第三版) 柚木馨(他) 有斐閣
- 中 尾 英 俊 <民法>
物権法 (新訂) 我妻栄 岩波書店
入会林野の法律問題 (改訂版) 中尾英俊 勁草書房
民法案内 (全訂第一版) 我妻栄 一粒社
民法基本判例集 (改訂版) 我妻栄 一粒社
日本社会の家族的構成 川島武宣 日本評論社
- 西 井 龍 生 <民法Ⅲ・Ⅳ>
現代民法学の基本問題 (上・中・下) 第一法規
事務管理・不当利得・不法行為 (上・中) 四宮和夫 青林書院新社
民法 V (契約法) 石田穰 青林書院新社
民法研究Ⅰ・Ⅱ 椿寿夫 第一法規
財政法判例研究 椿寿夫 有斐閣
- 西 山 雅 明 <刑法Ⅰ>
犯罪者処遇法の諸問題 平野龍一 有斐閣
十九世紀ドイツ刑法学研究 山口邦夫 八千代出版
可罰的違法性論の研究 前田雅英 東大出版会
危険犯の研究 山口厚 東大出版会
諸外国の保安処分制度 泉博 日本評論社
<演習>
治療・改善処分の研究 加藤久雄 慶応通信
保安処分と精神医療 青木薫久 批評社
- 大 内 和 臣 <国際法>
ケースブック国際法 田畑茂二郎(他) 有信堂
解説条約集 小田滋(他) 三省堂
海洋開発の国際法 高林秀雄 有信堂
国際法講義 波多野里望 有斐閣
ワークブック国際法 太寿堂鼎 有斐閣
- 沢 野 直 紀 <商法Ⅰ>
演習商法 (総則商行為) 鴻常夫 青林書院新社
<銀行取引法>
金融取引法大系 第1～4巻 鈴木禄弥(他) 有斐閣
- 高 橋 貞 夫 <労働法Ⅰ>
現代労働法講座 14(労働争訟)、15(官公労) 日本労働法学会 総合労働研究所
- 労働法(1) 新版 片岡昇 有斐閣
労働法演習2 新版 有泉亨(他) 有斐閣
労働組合法 全訂 菊池勇夫 日本評論社
<労働法Ⅱ>
現代労働法講座 12(労働災害・安全衛生)
13(雇用保障) 日本労働法学会 総合労働研究所
労働法(2) 新版 片岡昇 有斐閣
社会法の現代的課題 荒木誠之 法律文化社
新労働基準法論 片岡昇(他) 法律文化社
<演習>
演習労働法 小西国友(他) 有斐閣
基本判例双書 労働法 窪田隼人 同文館
基本マスター労働法 日外喜八郎(他) 法学書院
労働委員会と労働法 佐藤香 第一法規
- 田 村 茂 夫 <商法Ⅰ(1)>
名板貸責任の法理 米沢明 有斐閣
商行為法 平出慶道 青林書院新社
商法論集Ⅰ・Ⅱ 小橋一郎 成文堂
商法総則 第三版 服部栄三 青林書院新社
<商法Ⅱ(1)>
会社法改正の論理と課題 酒巻俊雄 中央経済社
会社法の新傾向とその評価 田中誠二(他) 千倉書房
会社法の諸問題 (新版) 大隅健一郎 有信堂
会社法論 中巻Ⅰ・Ⅱ (新版) 大隅健一郎(他) 有斐閣
<基礎演習>
ドイツ法学者事典 クラインハイヤー 学陽書房
民法と比較法 五十嵐清 一粒社
日本人の法観念 大木雅夫 東大出版会
<演習>
判例教室商法 (新版) 喜多了祐 法学書院
考える会社法 倉沢康一郎(他) 弘文堂
- 田 辺 康 平 <商法Ⅲ>
演習会社法 龍田節(他) 有斐閣
現代会社法 (新版第二版) 河本一郎 商事法務研究会
商法講義 服部栄三 文真堂
手形・小切手法入門 前田庸 有斐閣
<商法Ⅳ>
コメンタール国際物品運送法 田中誠二(他) 勁草書房
海上保険 千倉書房
新損害保険双書(1)、(2) 田辺康平(他) 文真堂
- 山 田 洋 <行政法Ⅰ>
現代行政法大系1～10 雄川一郎(他) 有斐閣

<外書講読 I>

Introduction to Japanese law Noda 東大出版会

Public administration in Japan Tsuji 東大出版会

<演習>

行政法講義 (上・下) 和田英夫 学陽書房

行政法総論 兼子仁 筑摩書房

教 職 課 程

岩 尾 龍太郎 <哲学>

現代のための哲学 1～3 青木書店

カントと形而上学 ハイムゼート 以文社

近代市民社会の哲学 佐藤和夫(他) 青木書店

講座 哲学 全3巻 市川佳宏(他) 学習の友社

哲学を学ぶひとのために 岩崎允胤(他) 白石書店

昭和59年度 指 定 図 書 目 録

(図書館報 第100号 付録)

昭 和 59 年 7 月 6 日 発 行

西 南 学 院 大 学 図 書 館